

水を語る会

現在の会員数 一般会員160名 団体会員8団体 協力会員7名 (平成28年7月現在)

年次定例総会の報告

平成28年7月30日に「水を語る会」年次定例総会が開催された。定例総会には93名の会員が参加し、平成27年度事業報告・収支決算、平成28年度事業計画・収支予算、役員の改選、会則の改正が上程され、原案のとおり承認された。

総会特別講演の報告

日時：平成28年7月30日(土)14時30分～

場所：日本水道会館会議室

講演：「第二次大戦後の水害と水行政」

講師：東京大学名誉教授 日仏工業技術会会長
高橋 裕 氏

講演では高橋講師より、わが国における第二次大戦後の水害と行政の対応について紹介された。

本題ではまず、1982年に発生した長崎水害について言及。「当時、建設省は眼鏡橋が川の疎通能力を落としていることが水害の原因になったため撤去を計画したが、反対運動を経て残されることとなった。これは治水と文化財の両者を両立して対策が講じられた画期的な事例」と説明された。



高橋氏



会場の様子

つづいて、1945年の枕崎台風、1947年に利根川洪水をもたらしたカスリン台風、1953年の北九州水害、1954年の洞爺丸台風など「戦後15年間の大水害頻発時代(1945～59年)」について丁寧に解説された。1958年の狩野川台風については、「都市水害の走り」としたう

えで、「水害を考えると、その土地の利用の履歴を考える必要がある。人の住んだ歴史に水害の本質がある」と強調し、さらに「日本は水害大国であり、数十年、100年という期間でわが国の大河川の大半は堤防が切れている」と語った。

講演の最後には、「水害は社会現象である。また、今後重要であるのは気候変動と海面上昇。50年後、100年後の海面水位を意識しておくべき」、「主要な河川の堤防は必ず切れることを国家の常識にしてほしい」と締めくくった。

定例幹事会の報告

日時：平成28年7月30日(土)12時～13時

場所：日本水道会館会議室

議題：総会準備、今後の講師の検討、ウェブサイト等、講演録の作成

編集後記

水を語る会・会員集会の動画配信を行っております。ご視聴される方は、下記の実施要領を基に、動画配信をお楽しみ下さい。

- (1) 水を語る会の Website を立ち上げて下さい。
(URL: <http://mizuwokatarukai.org/>)
- (2) Website のトップページの黒塗り部内をクイックして下さい。(当日、水の写真の部分が黒塗り部に切り替わります。)
- (3) パスワードを入力して下さい。(パスワードは、講演会の案内メールに記載されております。)
- (4) Web ブラウザが立ち上がり、Ustream の Website が立ち上がります。
- (5) 再度、パスワードを入力して下さい。
- (6) ライブ配信画面に切り替わります。

※注1) 動画配信は中継のみで、後日ご視聴頂くことはできませんので、予めご了承下さい。

※注2) パスワードを幾度か要求されると思います。その度に、同じパスワードをご入力下さい。

新規入会をご希望の方は、事務局までご一報ください。詳しくはホームページをご覧ください。

→ <http://mizuwokatarukai.org/>

以上